優秀賞

母の涙

坂東市立猿島中学校　二年
青木凛子

私の母は以前、障がい者施設で医療従事者として働いており、その施設でクラスターが起こりました。その日から家に帰ってこられない日が一週間程続き、同時期に母の感染が分かりました。感染が確認された日からホテル療養が始まり、その期間を合わせると、二週間程母に会えない日が続きました。そしてホテル療養が始まってビデオ通話をし、久しぶりに母と顔を合わせました。その時、母は涙を流しました。

仕事中の母のことは、あまり見たことがありません。毎日愚痴もこぼさずに働く姿を見て、「そこまで大変ではないのだろう」と思っていました。しかし、母の涙を見て、初めて仕事が辛いのだということに気づくことができました。と同時に、言葉にできないくらい、私達家族への深い愛情を感じました。私も母に会えない中で普段と違う生活をすることの大変さを感じていました。また、周りにどう影響するか、不安しかありませんでした。そんな中、母もきっと、いろいろな思いを抱いていたのだと思います。辛い仕事・大変な仕事に対しても向き合い、家族のために頑張る母を改めて尊敬しました。

私は、このような体験から、世の中の医療従事者や、その周囲の人たちへの理解について皆さんにも考えて欲しいと思いました。「ウィズコロナ」という言葉をよく耳にするようになりました。外出制限の緩和やマスクの取り外しについて議論が上がっています。しかし、感染者数はまだ減りません。そのような現状から、これからも医療従事者の負担が大きくなっていくのではないでしょうか。また、

働いている病院や施設によって、待遇が異なることも問題であると感じます。その場所によって医療物資の配給や、給料などに差があるそうです。私は、「病院ごとに異なる待遇をするべきではない」と、現状に違和感を覚えました。このような状況が約三年間続いているのにも関わらず、仕事を辞めずに日々頑張っている医療従事者の方々を尊敬しています。

新型コロナウイルスが流行してから約三年が経ち、このような現状に私たちが慣れてきているのも事実です。周りを見ると、外出している人たちが増えてきていると思います。ですが、それは悪いことだと言い切ることはできません。「ウィズコロナ」の考え方からすると、生活様式の変化も受け入れていくことが求められるからです。実際、私の中学校でも、学校行事が再開され、これからの学校生活のあり方を見直す時期に来ていると思います。しかし、外出先で、消毒をせずに行動したり、マスクを外す人を見かけたりするのも現状です。そのような人々を見て、私は、新型コロナウイルスの感染者を減らしていくためにも、感染対策の徹底はするべきだと考えます。そのような感染対策の徹底が、医療従事者の負担を減らすことにも繋がるのではないのでしょうか。

私には、将来看護師として働くという夢があります。今回の体験を通して、以前までぼんやりとしていたものがはっきりと定まりました。これから私たちが過ごしていく未来がどのように変化するかは分かりません。しかし、誰もがこの新型コロナウイルスに苦しむことのない世界を望んでいます。それは間違いありません。母が体験したような思いをしなくて済むような日常が訪れることを私も願っています。その実現のために、一人一人が今できる感染対策を行ってください。自分の行動を、もう一度、よく考えてみてください。あなたの大切な誰かを守るために…。